

教育シン・ン力論

コロナから問う

■2■

花まる学習会代表 高浜正伸

これからは「めっちゃくちゃ変化する世界」になりま
す。そこで生き残るための
教育は、意外と本質的なも
のではないのでしょうか。つ
まり、考える力と、考えた
ことを言葉にする力を身
に付ける、そして、体験総
量を増やすということに
す。

どれだけ遊んでけんかを
したか、障害のある人や外
国の人と出会ったか。挫
折も含めた多様で豊かな経
験が足りないといふ大人にな
った時、苦手に感じたり、乗り
越えられなかったりしてし
まう。いつの時代も同じで

変化する社会を生きる

当たり前疑い考える力

す。

「より良い枠組みを選ぶ
ために良い成績を取る」と
いう従来の考え方は、コ
ロナ禍のような事態に対
応できない。知識を蓄えて
正しい答えを出すのは今
後、人工知能(AI)がや
ってくれます。そうではな
く、働く頭をつくるのが大

事。

そして、生き方は自分で
決めなくてははいけません。
自分の「好き」を大事にし、
それで飯を食うために何が
必要かを考える。それには
「哲学」が必要ですが、何
にでも効率を求める雰囲気
の今はその時間がありませ
ん。



高浜正伸さん。「教育とは、
生きる力のバトンを渡し続
けていくことです」

たかはま・まさのぶ 1959年熊本県生まれ。
幼児から中学生までの学習塾「花まる学習会」代表。
3浪して東京大に入学、90年に同大学院修士課程修
了。思考力や野外体験を重視する独特の教育理念や
学習法で注目される。算数オリンピック作問委員も
務める。

シリコンバレーで大成功
した人の共通点は高校、大
学で「不良」だったという
ことらしい。周りの言うこ
とが絶対とは思わず、従わ
ない。学校に行かず街でフ
ラフラしながら、自分のベ
ースを取り戻し、世界を自
分の言葉で語り直す。正解
なき人生で誰の笑顔が一番
大切にすることを考えたの
ではないでしょうか。

実際に食べていくには実
力を付けなければいけませ
ん。しかし、まずは自分の
頭でとことん考え、周囲の
期待や常識を取り去った上
で「やっぱりこれがやりた
い」というビジョンを明確
に持つことが大事です。コ
ロナ禍は「不良」でない人
にも「当たり前」を疑う哲
学の機会を与えてくれたの
ではないでしょうか。

(次回は21日掲載)